

風のように

甘木教会



主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

ヨセフはこのように、兄たちを慰め、優しく語りかけた。

創世記50：21

わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。9 キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。

10 それなのに、なぜあなたは、自分の兄弟を裁くのですか。また、なぜ兄弟を侮るのですか。わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。

ローマ信徒への手紙 14：8～10

イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。

マタイによる福音書 18：22

【説教要旨】

わたしの まちがいだった

わたしのまちがいだった

こうして草にすわれば それがわかる

八木重吉

純粹に自分の心を美しくしようともがいていたクリスチャンの詩人、八木重吉の詩です。純粹に美しく生きようとすればするほど、人を裁き続けた。

「罪」という言葉が出てきます。何度、聞かれたと思いますが、「的外れのことをする」という意味です。

八木重吉氏は、純粹にキリスト教を追い求めました。しかし、彼は同時にこれが彼をまとはずれな行為に導いていったのです。自分が悪いのではなく教会が、他人が悪い。相手が的外れた生き方をしていると思うようになる。「教会を捨てた自分が、

さて、それにも益した何ものをえたろうか。生ぬるい、教会の空気には気をもようして、これを逃げはしなかったが、やはり、ああ何という、微温なる現在であるか」と鋭い教会への非難の姿をみます。

聖書の譬えを見ましょう。莫大な負債を負ったこの僕は、自分が負債を負った者としてはよく分かっていました。しかし、彼は自分の本当の姿を見ていませんでした。だから彼はわずかな金を貸した者からこれを返せと迫ったのだと思います。

自分の真の姿とは何か。それはいかに自分が「的外れのことをする」者であるかということである。

ペテロも的外れた自分に気づかないでいるように思います。だから彼は、「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか」、三回で良いところを「七回」と言ったからさぞかし、イエス様に褒められると思ったでしょう。しかし、イエスさまは、「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。」と言われました。

イエスさまは、ペテロにペテロがいかに人を許せない存在であるかということを導いていきます。ペテロ自身の真の姿を教えるのです。さらに譬えを語ります。的外れはした僕について話をします。この的外れた生き方をしている僕を主人、つまり神は「家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。」とあるように憐れんでいてくださる。この深い主人の憐れみを彼は気づかないでいるのです。主はペテロにあなともそうではないかと。私たちは、憐れみ赦してくださる主人、神の存在の中に自分があるということを忘れてしまう的外れた生き方をしています。

八木重吉は教会を離れます。そして教会を批判します。それは純粹さゆえです。若この僕のように危機におそわれます。当時、結核という死病に取り付かれます。この人生の危機の中で、彼は徐々に自分の姿に気づいていくのです。

十字架は悔いのくさびである

罪ふかくして悔いを完うし得ぬ者へのめぐみである。

何人でも仰ぎさえすれば救われるという約束である。

基督を見し者が信じたる福音である。

自分が罪深く、しかし、同時に神の憐れみ、十字架につけられた基督が共に歩んでいたことに気づいた時、いかに自分が救われたかと知ったのです。わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。

彼は、洗礼を授けてくれた牧師に一心に詫びたのである。

わたしの まちがいだった

わたしのまちがいだった

自分が神の憐れみ、神のみ手の力の中に生きているということを感じかされたとき、一心にわたしのまちがいだった/わたしのまちがいだったと詫びることができた。最後に「こうして草にすわればそれがわかる」と結ぶのは神のみ手にある絶対安心感です。ここで人は自分自身を取り戻すのである。赦した量の問題ではない、赦された自分がいることである。彼はこう詩います。

イエスの名を呼ぶこと

イエスの像を心に描くこと

イエスについて人に述べること

出来るかぎり人をゆるし人にやさしく

素直な瞳をもちつづけること

そういうことを趣味にしたい

あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろうという主のお言葉が、自分のものとなり、「イエスの名を呼ぶこと/イエスの像を心に描くこと/イエスについて人に述べること/出来るかぎり人をゆるし人にやさしく/素直な瞳をもちつづけること/そういうことを趣味にしたい」と心から願うものに変えられていくのです。ヨセフはこのように、兄たちを慰め、優しく語りかけた。

心落ち着き、やすらいで、他者を慰め、優しく語りかけるが私たちに備えられているのです。平和の内にいきましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると

激変時代 AI



Yahoo ニュース（テレ朝 news）で、ビルゲイツ氏がAIの時代を生きる私たちに「激動のAI時代が到来。我々がいま下すべき重要な選択」というタイトルで衝撃的発言をしたことが載っている。

多くの仕事がAIによって奪われていくということである。先日、神学的に深いS牧師と話をしたとき、彼がAIに説教を作らしたというのである。AIとの説教作成の途中で会話しつつ、説教は整えられるが、深みがない。AIには出来るが、AIにやらせるものではないということの区別。しかし、牧師が少なくなるとそんなことは言っておれないということである。無難なAIの説教に頼らずおえないという現実がおきてくるであろう。

そしてニュースは次のように結んでいる。「ゲイツ氏が投げかけているのは、単なる『AIで仕事がなくなる』という問題ではない。AI時代に『人間の仕事にはどんな価値があるのか』。その答えを、私たちはいち早く定義していかなければならない。」

AIの発達とは、私たち人間が生きていくとは根本から問いなおされていることであり、いや、人間とはということが問われているということであると思う。凄い時代を私たちは生きているが、「すべてに時あり、・・・はなはだ良かった（コヘレト）」ということも真実である。いたずらに焦ることなく自分を変えて勇気を持ちたいものである。

園長・瞑想？迷走記



二学期は、縦割り保育（異年齢保育、混合保育）を子どもたちの成長に合わせて行っている。初めてのことで、この保育の良さ、課題についてあらかじめ、保護者、保育者と話したが、先生方は不安を覚えたが、今、子どもたちは生き生きと楽しんでいる。年上の子は年下の子の面倒を見ることで責任感が育ち、年下の子は年上の子に憧れて自立心や向上心が芽生えつつある。不安はあったが子どもたちの力が吹き飛ばした。

日毎の糧

聖書：わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。

詩篇 103：2



ルターの言葉から

キリスト者にとり人生の形式は福音の信仰、目的は罪の赦し、活動的な力は聖霊とこの世で苦難を負うという非必然的現象である。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

主は憐れみ深く、恵みに富み／忍耐強く、慈しみは大きい。

詩篇 103 篇は、「主を讃美せよ」という呼びかけから始まり、「主を讃美せよ」という呼びかけに終わる。

最初は、「わたしの魂よ、主をたたえよ。」というように主語は、「わたし」であるが、結びは、「主に造られたものはすべて、主をたたえよ」とあるように主語は、「主に造られたものはすべて」となりすべての被造物は、主を讃美せよとなる。どうして、「わたし」ということから「すべて」となったかという、その間を挟まれた箇所は、「神の業と神の属性の讃美」である。それは、イスラエルの歴史、特にモーセを通して示された神の業と属性である。「103:7 主は御自分の道をモーセに／御業をイスラエルの子らに示された。103:8 主は憐れみ深く、恵みに富み／忍耐強く、慈しみは大きい。」である。民族の歴史を通して、「わたし」から「すべて」となったのである。

歴史に立ち会い（神の業）、歴史の奥に神の属性一、慈しみは大きいーと出会ったのである。そのとき、「わたし」から「すべて」となったのである。すべての人が歴史を通して示される神の慈しみを感謝して、讃美せざるを得ないと詠うのである。

そして最後は、神と私に帰り詩を結ぶ。「わたしの魂よ、主をたたえよ。」。

引用・参考：「新共同訳 旧約聖書注解Ⅱ 太田道子 日本基督教団出版局」、詩編の思想と信仰Ⅴ 月本照男 新教出版、「イエス伝」 若松英輔 中央公論新社

祈り：主よ、歴史を通して、あなたの慈しみを共に讃美できますようにしてください。アーメン。

甘木通信

神が人間を試されるのは、人間に、自分も動物にすぎないということを見極めさせるためだ、と。人間に臨むことは動物にも臨み、これも死に、あれも死ぬ。同じ霊をもっているにすぎず、人間は動物に何らまさるところはない。すべては空しく、すべてはひとつのところに行く。



すべては塵からなった。すべては塵に戻る。

コヘレト3章18節～20節

「遠くに」

8月31日に73歳の誕生日を迎えて、よくよくここまで生きられたという実感である。そして、これも死に、あれも死ぬという事実を重ねてきている。

教会学校で教えた生徒K君も、B君も天に帰った。一生懸命、教会学校で教えたことは何だったのだろうか。すべては空しく、すべてはひとつのところに行くという事実しかない。今、反省するのは、なんでもっと愉しく一生懸命、一緒に遊んで、歩んでいなかったのだろうか。もう会えない。すべては塵からなった。すべては塵に戻ると。

だから、もっと謙虚になり、教える、教えられるということだけでなく、一緒に、その時、その場で遊び、愉しむということが牧会ではないだろうかと思っている。すべてが塵になる前に、もっともっと、出合いを大切にし、そのとき、その場を共に遊び、楽しみ、歩むということがなんとすばらしい財産かということを今、気づかされている。そして、そんな牧師がいたことも思い出す。また、もう一度、会いたいと思う時、遠くに行ってしまった。これも時。

(甘木日記)土) 甘木幼稚園の園庭の轍を壊し、整備。これは面白い。朝食高校の運動会の音楽が聞こえる。日) 朝、隣の駐車場に出ていたペカンの枝を剪定。よく伸びた。月) 日善幼稚園の職員の面談。久しぶりに休みをとり博多に。うどんいっぱいのみ。火) 日善幼稚園の空調を替えたので経費の半額を年金から。みな献ぐるまではいかない。泊水) 早朝の電車で、日善幼稚園へ。通学生で一杯。木) 車で、松崎保育園、甘木教会。老いには勝てず午睡後から仕事。金) 今週も生かされて、主をたたえよ。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）昼まで甘木教会へ行き、昨日の雨で出来た園庭の車の轍を壊し、整地する。日照りが続いた後の雨は嬉しいが。仕事をしながら近くの朝倉高校から大きな声、音、運動会である。楽しく、元気にやってほしいと思いつつ轍を壊す手も力をいただき、整地完了。買い求めていた日日草、ベコニアを植え、ポーチュラカを移植し、今日は終わり。泊。公営温泉へ。日）昨日の内に庭の掃除も出来ていたのので、外回りの掃除、隣の駐車場に出ていたペカンの枝の剪定。庭には芝生が定植し、マリゴールド、ポーチュラカ、日日草、シロツメクサ、ランタナ、落花生、ゴーヤ、フーセンカズラ、ハーブの幾種類（バジル、タイバジル、レモングラス、ラベンダー、ローズマリー、オレンジバーム、赤、青紫蘇）変わったところで、芋、ポインセチア三本、ブラジルの国花・イッペーと纏まりなくごちゃごちゃにいる。種を蒔かなければならないペッパーミント、蓮華がある）礼拝前に生え過ぎたレモンバームの葉を刈る。礼拝、お茶の会、信徒さんとしばらく話をし、久留米へ。久留米の役員会には出席できず。月）午後から職員面談し、夕刻、久しぶりに博多のデパートに用事があり出かける。うどんを一杯食べて帰宅。火）日善幼稚園で仕事。空調をかえたので、年金から経費の半分を幼稚園に献金。これで家内の誕生日プレゼントは小さくなる。（しくしく）草花の水遣りが気になり夜に甘木に出かける。雨、よかった。泊。水）朝、小雨が降っていて安心。6:48 電車で久留米。電車の中で髪を整える女の子、二人、髪を整えることも出来ないほど、ぎりぎりまで家にいるのかなと思いつつ、横にいる私は何も言えず困った。そんな気持ちで一日中、幼稚園。いつも子どもたちのことを祈って、支えて下さる理事長、チャプレンであるY牧師が誕生日。感謝、感謝して、ご夫妻で食べられるほどの小さなケーキとお菓子、職員にはシュークリームを購入。礼拝で子どもたちとお祝いする。職員会議と長時間は、疲れた。木）午前中は松崎保育園で職員へ聖書の学び（ホセア書）、子ども礼拝、午後から甘木教会へ。聖和幼稚園の会計作業、庭の手入れ、レモングラス、タイバジルの乾燥と楽しむ。オレンジバームは人気がない。ミントを植えよう。たくさんハーブを植えよう。夜、いつものように公営の温泉に行く。金）会議が二つ、なな一日。今週も本当に目に見えぬ力に生かされたとか心から感じる。



かなかハード
ここまでこら

（レモングラス）↑（タイバジル）↑